

もっと！つながるサイネージ

京都総合観光案内所からリアルタイムな混雑状況を「もっと！つながるサイネージ」を利用して観光客へ発信

お客様導入事例

簡単操作

ライブ
対応可能

サイネージ

一括管理

公益社団法人 京都市観光協会様

公益社団法人 京都市観光協会
HP : <https://www.kyokanko.or.jp/>
電話 : 075-213-1717

公益社団法人 京都市観光協会様は、観光庁が2017年11月に初めて登録した「日本版観光地域づくり法人(DMO)」の41法人の1つで、認定以来、京都市版DMOとして行政や関係諸団体と連携しながら京都の観光振興に取り組まれています。

また、京都市域において唯一観光振興を目的に活動する団体として、京都の玄関口となるJR京都駅ビル2階にある京都総合観光案内所(京なび)の運営をはじめとして、京都ならではの観光資源を活用した事業実施や観光情報の発信など、国際文化観光都市「京都」の持続的な成長を目指した取組を積極的に推進しています。



JR 京都駅ビル2階にある京都総合観光案内所(京なび)

Youtubeでのライブカメラの配信は上下で、エリアに分けて配信しています

観光地の混雑状況がひと目で分かる市内9ヶ所のYoutubeでのライブカメラ映像については、新規に増設した上下2台のブラビアでリアルタイムに配信しています。また、すでに設置されている5台のモニターには、「つながるプレイヤー」を導入し、合計7台のデジタルサイネージを使用して訪問いただいた観光客の方々にイベント等の情報発信を行っています。

コストを抑えることができただけでなく、シンプルで使いやすいユーザーインターフェースにより、案内所内のすべてのサイネージ端末を管理できることになったことで作業も楽になり、非常に良かったとコメントをいただきました。



お客様の課題

- 観光地の情報をライブ配信しているYouTubeを活用したい
- 機器増設は最小限に抑さえ、既存の設備も活用したい
- サイネージの更新作業をシンプルにしたい

MEDIAEDGE からのご提案

- Youtube配信をそのまま利用できるサイネージ
- 新規設置と既設の拡張いずれにも対応可能
- コストを抑えて効果的なサイネージを実現

今回当社からご提案させていただいた「もっと！つながるサイネージ」は Youtube をサイネージコンテンツとして登録し利用できるため、お客様が必要とされていた最大の導入条件をクリアしており、導入を決めていただいたとのこと。

「もっと！つながるサイネージ」を 運用し簡単更新を実感

クラウドサービスでご提供させていただいている「もっと！つながるサイネージ」は、すべての操作をパソコンやスマートフォン、タブレットなどのブラウザから行うことができますので、サイネージコンテンツの更新などの操作をどこにいても行うことができます。

今回導入いただいた京都総合観光案内所では専任の担当者を設けることなく、各コーナー担当者がそれぞれのアイデアを活かしてコンテンツの更新を行われているとのこと。操作が簡単なことと、担当者の端末で更新が可能なので使い勝手が良く、従来のシステムに比べて運用がとても便利になったそうです。また、従来のデジタルサイネージで使用していた既存のコンテンツについても新システムへ引き継ぎが容易であったため、非常に助かったとの評価をいただきました。



各種イベント等の動画も活用し 魅力向上を目指して

京都総合観光案内所に設置されたサイネージは、観光客の目に留まりやすい案内所の入り口に設置することでアイキャッチになっており、イベント情報や各観光地の見所の紹介の他、新型コロナウイルス対策関連の情報も表示しています。

また、所内中央には市内のライブカメラ映像を表示しており、多くの観光客の方が足を止めて各種情報を見ていただけることから、新たに導入したデジタルサイネージの効果を実感されているそうです。

京都市観光協会様の YouTube チャンネルでは、ライブカメラ映像の他に各種イベントなどの動画も季節に合わせて配信されています。今後はこれらの動画もサイネージコンテンツとして活用するなど、観光に来られたお客様により一層タイムリーな情報を提供していきたいと考えられているとのこと。

京都市観光協会様 今後の取組

観光情報の告知にサイネージを利用されていますが、まだまだ紙媒体のポスターが主流を占めています。ポスターの場合、掲示できるスペースに制限がありますが、サイネージであればより多くの情報を即時に表示することが可能となりますので、サイネージの特性を活かした効果的な情報発信をされたいとのこと。

今後、ライブカメラの拠点を増やすだけでなく、最新のイベント情報などを「もっと！つながるサイネージ」を活用して、観光案内所を訪れる方々にお届けできればと考えられているそうです。

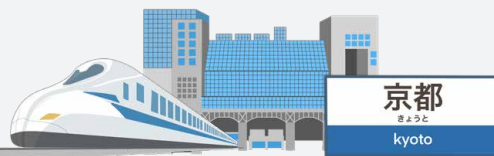
本事例に対応した製品

運用イメージ

YouTube ヘライブ配信



そのままサイネージコンテンツとして活用



観光案内所内で各地のライブ映像を表示



観光案内所入口で観光情報を表示

事務所内

PC・タブレットで
簡単操作！



各担当者が
それぞれ更新

現時点の混雑状況や桜の開花状況等を見て、観光場所を決めることができます

製品情報はこちら



もっと！

つながるサイネージ

もっと！つながるサイネージ

製品情報はこちら



つながるプレイヤー

もっと！つながるサイネージ

多拠点導入
社内情報をサイネージで効率良く発信し活用

お客様導入事例

簡単操作

ライブ
対応可能

サイネージ

一括管理

every24

ダイセーエブリー二十四株式会社

ダイセーエブリー 二十四株式会社 様

ダイセーエブリー二十四株式会社
HP : <https://www.every24.co.jp/>
〒491-0353
愛知県一宮市萩原町萩原字松山 531-27

1983年創業以来、30年以上にわたり、愛知県を中心として関東から中国・四国にも拠点を置き、チルド食品（冷蔵品）専門に物流サービスを展開するダイセーエブリー二十四様。1台のトラックに複数のお客様の商品を積み合わせて運ぶ「共同配送」にいち早く取り組まれ、独自のルート・システムを他社に先駆けて築き上げられました。業務は配送センターによる一時保管・仕分・出荷等の流通加工。

自分たちが運ぶすべての商品を、思いの詰まった宝ものという意味をこめてゴールデン・パッケージと呼ばれており、年中無休24時間配送で消費者に思いを込めて配送業務を行われています。



導入のポイントは社内情報共有の効率化と操作のしやすさ

導入検討ポイントは導入したら社内情報共有の効率化がどう変わるかがポイントでした。どんなに良いシステムでも上手く活用し、各拠点によって目的がしっかり伝わるアイテムでないと意味がない。全国41拠点に配信するサイネージでのご提案をいただいた時にサイネージが同社にとって意味があるもので、どんな存在になるのかということも重要とお考えでした。また、操作も簡単でなければ日々の業務時間の負担になってしまい、担当者が変更になった場合にもスムーズに引き継ぎができるよう、操作管理の難易度もポイントでした。

「もっと！つながるサイネージ」はこれらの条件をクリアしていた上、ブラビアの表示画面がとても綺麗だったことも決め手となったそうです。

お客様の課題

デジタルサイネージを通して、
全社員に対して、今まで以上に
効率よく・効果的に情報を
発信したい。

MEDIAEDGE からのご提案

- ・クラウドサービスで全国へ配信
- ・ブラウザベースで非常に運用が簡単
- ・配信状況もリアルタイムで確認可能
- ・安心の運用サポート

本社から一括管理が可能なこと、簡単に更新できること、モニタを新規導入する箇所は業務用ブラビアを、また既設のモニタには専用プレイヤーでご利用可能な「もっと！つながるサイネージ」をご提案させていただきました。

「もっと！つながるサイネージ」 を運用し簡単更新を実感

操作管理は、主に広報のご担当者様が管理をされています。情報コンテンツは各部署から発信したい情報をまとめた配信 PDF データを提供してもらい、情報を更新されています。

配信に掛かる社内ルールを設け、現在は隔週配信を原則としていますが、突発的に更新が必要となることも多いとのこと。また、デジタルサイネージの導入にあたって『サイネージの運用を、専任担当者がわざわざ時間を割いて行うような仕事にはしたくない』と考えられており、デジタルサイネージの更新作業が難しいと、専任担当者を割り当てることとなり、トレーニングにも時間がかかる。

・作業が難しいとそれだけで更新の際に時間がかかることになるが、突発的な更新も多いことから、迅速に対応できる必要がある。

という課題をいただきました。このいただいた課題に対してご提案させていただいたのが、「もっと！つながるサイネージ」になります。導入後使い勝手をお伺いしたところ、『操作が簡単で、更新作業にわずらわしさを感じることがなく気軽に更新作業を行えるので非常によかった。』とご評価いただきました。



グを実施させていただき、運用ご担当者様から「導入前に操作方法を直接確認することができて安心した」とのコメントをいただきました。社内においては、配信情報の見せやすさなどの提案を運用ご担当者様から各部署のご担当者様と共有を行うなどして、社内運用が活発になってきているとのこと。

情報更新を頻繁に行うことにより、社員がサイネージを毎日確認する習慣をつけるのが次のステップと考えているそうです。



業務効率化の先は 現場向上を目指して

今は本社から拠点への一方通行でしか情報を発信できていませんが、今後は各拠点から各拠点の社員への情報共有ができる環境構築を目指しているとのこと。

チルド食品物流サービスを行っているため、天気や高速道路、自然災害の情報は常に気にしています。

このような情報を、エリアを超えた拠点間で素早く確認できる環境が必要不可欠です。『情報共有の公平性という意味で、サイネージですぐに情報共有できる環境があるのは大きいと実感している。拠点間の情報共有を「もっと！つながるサイネージ」を活かして、意欲的に行っていきたい』とおっしゃっていただきました。

概略構成図



本事例に対応した製品

社内の情報共有の意識の変化

全国 41 ヶ所への機材設置でしたが、事前に導入スケジュールについてお打合せをしっかりとさせていただいた結果、9月に導入開始をすることができ、スピーディーな導入にもご評価いただきました。

また、導入時にはサイネージの操作トレーニング

製品情報はこちら

もっと！
つながるサイネージ

もっと！つながるサイネージ

製品情報はこちら

つながるプレイヤー

もっと！つながるサイネージ

社内向けと社外向け両方で使用する
サイネージとしてご採用いただきました

簡単操作

ライブ
対応可能

サイネージ

一括管理

お客様導入事例

株式会社 キャッチネットワーク様

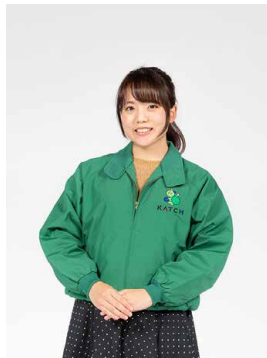
株式会社 キャッチネットワーク様は、愛知県刈谷市を本拠地として1991年に設立された有線テレビジョン放送や電気通信、イベントなどの事業を中核として、刈谷市、安城市、高浜市、知立市、碧南市、西尾市という広いエリアでサービスを展開されています。オンリーワン地域密着メディア企業を目指し、身近で役立つ地域情報をわかりやすくタイムリーにお届けするだけでなく、サービス提供エリアの自治体・警察と「災害時の放送に関する協定」を締結し、災害発生時においても地域の方々にとって重要な情報をいち早くきめ細やかにお届けできるよう丸となって取り組まれています。

今回新たに社内外への情報共有を行えるようデジタルサイネージを導入することになり、当社の「もっとつながるサイネージ」をご採用いただきました。



コーポレート本部
社内DX課

太田 明彦 様



コーポレート本部
広報課

加古 くるみ 様



コーポレート本部
広報課

尾島 ほの香 様

一般エリアとセキュリティエリアで異なるサイネージを表示

お客様が来られる一般エリアと、社員が利用するセキュリティエリアに表示するデジタルサイネージはグループで管理されておりそれぞれに異なるサイネージを表示されています。

キャッチネットワーク様では1Fと2Fでも表示する内容を変えられるなど、必要な場所に必要なサイネージを的確に表示される運用をされています。運用も広報課の方が月2回ほどの更新も難なくこなされ、その安定性についても高い評価をいただきました。

お客様の課題

- ・社内外向けの情報をきちんと管理して表示したい
- ・コミュニティ放送番組の利用
- ・簡単な操作で運用したい

MEDIAEDGE からのご提案

- ・サイネージ表示中に受信している放送の表示が可能
- ・社内外向けに表示する内容をグループで管理
- ・動画 / 静止画等の取り扱いが可能
- ・簡単操作

お客様へのご要望にお応えできる製品として社内向けや社外向けなど、表示する内容をグループで管理できる、簡単に操作、運用ができる「もっと!つながるサイネージ」をご提案させていただきました。

社外のサイネージにも利用

さらにキャッチネットワーク様では、地域の情報ステーションとして刈谷市内のマンションにもサイネージを設置。簡単に運用ができることから、その運用をマンションの管理組合の方にお渡しし、時間が来るとコミュニティチャンネルが放送されるといった運用をされているとのこと。実際に操作をされているマンションの組合の方からも「使いにくい」や「わからない」というような問い合わせもなく、キャッチネットワーク様の運用担当の方の負担も相当低減されたそうです。



コミュニティチャンネルをデジタルサイネージで利用

ケーブルテレビ局にとって、コミュニティチャンネルが放映できるというのは非常に大きなメリットなため、もっと!つながるサイネージで外部入力や放送されている映像をサイネージの一部として使用することができるのは、非常に重要な機能として考えられているそうです。

また、システムが安定して稼働することも、メンテナンスという点からも大きくご評価いただきました。



キャッチネットワーク様 今後の取り組み

キャッチネットワーク様では、今後、「地域のテレビ局」と「通信事業会社」の強みを活かし、地域情報の積極的な発信による地域の活性化や、災害などいざという時に必要な災害情報をお届けできるよう、取り組んでいかれるとのこと。

また、安城市内のマンションにも刈谷市のマンションと同じような仕組みのサイネージを追加していくことになっており、社外へのサイネージサービスの充実やコンテンツの受託作成などにも力を入れていかれるとのことでした。

成功のポイント

簡単な操作による運用負荷の低減と、外部入力機能を活用したコミュニティ放送を組み合わせた地域密着を実現したサービスの構築

本事例に対応した製品

